

初めての ホームステイ受入れ

第1回目にお母さん1人、子ども2人で参加の親子の受け入れをしてくださった加藤絹子さん（塩屋）からお話しを伺いました。

「初めてのホームステイ受入れということで、経験者の妹に手伝いをもらいながら受け入れをしました。夕方に受け入れが始まり、『海で遊びますか?』と聞いたところ『行きます』とのことだったので南大隅の大浜に行きました。今年初めての海水浴だったようで、夏休み一番の思い出として絵日記に書いてくれたようです。」加藤さんはメールアドレスを交換し、受け入れ後も連絡のやり取りをしているそうです。「子どもたちの近況などを教えてもらっています。」



花瀬での対面式

子どもたちの思い出にもなったようで、喜んでもらえてよかったです。とにかく無事に終わって安心しました。」とホームステイ受け入れを振り返っていました。



ビジターセンターで小物入れ作り

参加親子の方と 夏の風物詩体験

第2回目の日程では宿利原地区の方々が体験活動やホームステイの受け入れをしてくださる予定でしたが、参加親子が1組2名ということ、話を中心となって進めてくださったっていた公民館長の厚ヶ瀬博文さんがホームステイの受け入れをしてくださいました。到着後、神川大滝の案内をしてくださったたり、スイカ割りや花火などをしたそうです。参加者の方は「今年はじめて夏らしいことをしました」と話されていました。

第3回目では、青年団や馬場地区公民館・川原地区公民館が協力を申し出てくださっていました。

また、熊本市や益城町、嘉島町などの役場に募集の告知に行きましたところ、お忙しい中にも関わらず対応いただき、避難所への掲示や学校への配布までしてくださった町の方の手で今回実施することができ関係者の皆様には、大変感謝申し上げます。



お別れ式

今回のプロジェクトは新聞やテレビなど多くの報道機関の取材を受けました。これは住民の皆様が主体的に、しかも、ボランティアで行う支援が他にはない取り組みであることと、それを町民一丸となって実施していることを社会が高く評価していることにほかなりません。

今回のプロジェクトを通して、錦江町は「義理堅く心温かな町民が住む町」というイメージが浸透したのではないのでしょうか。

参加した熊本の親子の方々は、子どもたちも地域の人と触れ合いながら過ごし、ホームステイ先の方とのお別れの際は、1泊の滞在でしたが涙を流す方もいました。「震災後、子ども達をどこにも連れて行けず、申し訳ない気持ちもあったが、今回の体験に参加できてよかったです。」という声や「子ども達は錦江町から帰ってきてから、少し勇気が出たようでお留守番が出来るようになりましたよ」というお話を後日ご連絡くださったたり、そして何よりほとんどの参加者の方が「町のあたたかい人たちに癒されました」「また錦江町に行きたい」と話していました。協力していただいた方々に改めて感謝いたします。

・錦江町青年団

岩崎 史教（栄町）
上鶴 幸子（神川上）
追 尚樹（中園）
追田 ひかる（鳥浜）
田尻 健太（新田）
下園 理穂（栄町）
山元 大志（西中郡）

《食材提供》

・上部地区営農組合
・くまきストアー

《ホームステイ受入れ家庭》

宮下 和久（上之宇都）
荒武 正史（木原）
ほか馬場地区公民館の皆様

《体験活動》

・川原地区公民館の皆様

《昼食提供》

・川原地区公民館女性部の皆様

